

平成30年11月21日

平成30年11月定例教育委員会会議 自由討議資料

テーマ「平和教育について」

平和教育について

1 趣旨

先の大戦により、原爆の恐ろしさや戦争の悲惨さを体験した日本人ほど、恒久平和を願う国民はない。戦争体験の風化も進み、平和の尊さについての意識も薄れてきている。このような中で、戦争の悲惨さと平和の尊さについて学習し、平和を希求する心と態度をはぐくむ平和教育を推進することは極めて大切なことである。

2 平和教育の取組について

平和教育については、一人一人の生命と人権尊重を基盤として、すべての教育活動を通して実践していく。特に社会科をはじめ、国語科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などにおいて、教材内容の学習をとおして、戦争の悲惨さや平和の尊さを理解させ、平和を希求する心や態度をはぐくむようにする。また、小学校では長崎への修学旅行の機会をとらえて、事前事後の平和教育を実施し、その充実を図ると共に、中学校では、教科指導（社会科）の一層の充実を図る。

3 平和教育を進めるうえでの留意点

- (1) 平和教育は、児童生徒主体の調査・体験的な学習をどのように系統立て、教材化していくかが課題となる。その際、子どもの発達段階を考慮し、事象に深入りしたり、抽象的になりすぎたりしないようにする。
- (2) 国際情勢が不安定な中で（地域紛争、テロ事件、核兵器への脅威等が現実の問題となっている）、児童生徒もマスコミなどをとおして様々な情報を受け入れている。社会科を中心に時事的な問題として教材化して扱うこともあるが、単なる社会的事象として表面的な扱いにならぬよう多面的・多角的な見方、考え方ができるような学習計画を立てて指導する。
- (3) 学校行事等の際に、平和であることの尊さについて考えさせ、平和を守り続けていく心情や態度を育てるために、平和についての話をするなど機を捉えた啓発活動を行う。

小学校、中学校で使用された教科書における平和教育の記載について

(1) 小学校

内容・実践等

国語	<p>戦争や原爆に関する教材を扱い、平和を願う心情を高め、平和の尊さについて考えさせる。</p> <p>H26年度まで(光村図書) 3年生：ちいちゃんのかげおくり(文学) 4年生：一つの花(文学) 6年生：平和のとりでを築く(資料)</p> <p>H27年度から(東京書籍) 4年生：一つの花(読書教材)、世界一美しいぼくの村(文学) 5年生：手塚治虫(伝記) 6年生：ヒロシマのうた(文学)</p>
社会	<p>H26年度まで(東京書籍) 「長く続いた戦争と人々の暮らし」：戦争の悲惨さや敗戦により国民が大きな被害を受けたことを理解させることで、平和の尊さを学ばせる。 「新しい日本、平和な日本へ」：戦後、日本が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力の結果、国民生活が向上していったことを学ばせる。 「わたしたちの暮らしと日本国憲法」：日本国憲法の基本的な考え方の一つである平和主義の学習を通して、二度と戦争をしないという平和を求める心を学ばせる。 「世界の未来と日本の役割」：国際連合の働きや日本の役割を理解し、世界平和の実現のためには、お互いの理解と助け合いが大切であることを学ばせる。</p> <p>H27年度から(教育出版) 「戦争と人々の暮らし」：平和という抽象度の高い概念を平和と反対の極にある戦争の学習を通して、その悲惨さや恐ろしさに気付かせる。 「平和で豊かな暮らしを目ざして」：戦後の日本が平和で民主的な国づくりに取り組んだことで、国民生活も向上していったことを学ばせる。 「憲法とわたしたちの暮らし」：日本国憲法の三本柱の一つである平和主義の学習を通して、日本人の平和を願い、平和を求める心を学ばせる。 「世界の人々とともに生きる」：国際理解や国際連合のはたらきの学習を通して、世界平和と日本の役割を学び、かけがえのない地球を守る国際平和の精神を学ばせる。</p>
道徳	<p>低・中学年：生きることのすばらしさや生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 高学年：生命が多く生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。他国の人々や文化について理解し、日本人としての自覚を持って国際親善に努めること。</p>
特別活動	<p>学校行事の儀式的行事、遠足・集団宿泊的行事、「憲法記念日」、「文化の日」等の国民の祝日において、平和の重要性について学ばせる。</p>
総合的な学習の時間	<p>修学旅行の事前事後の指導も含め、年間指導計画に位置付け、系統的に平和についての学習を行い、平和の尊さについて理解させ、自らの生き方を考えさせる。</p>

修学旅行：全小学校が長崎を訪問し、平和学習を行っている。(単位：校)

目的地	H25	H26	H27	H28	H29	H30
長崎	50	67	67	64	73	77
長崎・佐賀	40	12	24	28	19	15
長崎・福岡	2	7	1	0	0	0
長崎・佐賀・福岡	1	2	0	0	0	0

活動内容	H25	H26	H27	H28	H29	H30
名所・旧跡・施設等見学	89	88	92	90	91	90
被爆体験談	91	81	90	88	90	90

(H30は予定)

(2) 中学校

内容・実践等

国語	<p>平和の尊さを訴える教材をとおして、戦争の悲惨さ、戦争への怒り、平和を大切にしている心情を育てる。</p> <p>H27年度まで(光村図書) 1年生：大人になれなかった弟たちに・・・(文学) 2年生：字のない葉書(文学) 3年生：挨拶 - 原爆の写真によせて(詩)</p> <p>H28年度から(東京書籍) 1年生：碑(読書教材) 2年生：字のない葉書(文学)、わたしが一番きれいだったとき(詩) 3年生：生ましめんかな(詩)</p>
社会	<p>【歴史】 (東京書籍) 「二度の世界大戦と日本」：日本が戦争へと向かった道とその様子、日本の降伏までの学習を通して、戦争の恐ろしさや原爆の悲惨さを学び、平和な国際社会の実現に努めることの大切さをとらえさせる。 「現代の日本と世界」：日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを通して、世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解する。</p> <p>【公民】 平成27年度まで(教育出版) 「人間を尊重する日本国憲法」：日本のこれまでの平和主義への歩みや日本国憲法の平和主義の立場を踏まえ、これからの社会の平和の構築について考えさせる。 「国際社会に生きる私たち」：世界の地域紛争の現状を理解し、国際連合の役割や日本の平和貢献のあり方、今後期待される活動について考えさせる。</p> <p>平成28年度から(東京書籍) 「個人の尊重と日本国憲法」：日本国憲法の平和主義の意義や国際社会における日本の果たすべき役割の学習を通して、平和の大切さや人間の尊さをとらえさせる。 「地球社会と私たち」：国際連合の役割や地域主義の動きの学習を通して、国際社会における日本の平和への貢献や地域における協調・協力について考えさせる。</p>
道徳	<p>生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。</p>
特別活動	<p>学校行事の儀式的行事、遠足・集団宿泊的行事、「憲法記念日」、「文化の日」等の国民の祝日において、平和の重要性について学ばせる。</p>
総合的な学習の時間	<p>修学旅行の事前事後の指導も含め、年間指導計画に位置付け、系統的に平和についての学習を行い、平和の尊さについて理解させ、自らの生き方を考えさせる。</p>

修学旅行：以下の通り広島、沖縄を訪れ、平和学習を行っている。

(単位：校)

目的地	H25	H26	H27	H28	H29	H30
広島	9	9	6	6	19	15
沖縄	7	5	2	5	3	1

活動内容	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平和講話	7	11	8	11	22	16
平和学習	16	12	8	11	22	16

(H30は予定)